

プロレスラーと副社長の 二刀流で戦い続けて、 プロレスの可能性に挑む。

何事にも全力の学生生活。 卒業後は憧れの道へ。

愛知淑徳大学での日々は、僕にとって濃く4年間。興味があつた心理学を学びながら、フットサルサークルやイベントサークル、障がい児支援のボランティア活動、飲食店でのアルバイトなど、多くのことを全力で楽しみ、青春を謳歌しました。特にサークル活動では、団体の立ち上げ、イベントの企画・運営など自ら行動を起こし、学内外で人脈を広げました。3年次の夏からは、就職活動をスタート。自分の就きたい仕事から分らず、悩み、もがく毎日でした。そんなとき、子どもの頃から熱中していたプロレスを久しぶりに観て、ワクワクする気持ちが再燃。「好きなことを仕事にしたい」「高校時代にレスリングに打ち込んでいた経験も活かせる」と思い、本気でプロレスラーを

めざそうと決意しました。それから長久手キャンパスのトレーニングルームに通い詰めて体を鍛え、1年で約20kg増量。縁あつて名古屋のプロレス団体に入団でき、卒業した年の秋にはプロレスラーとしてリングに立ちました。

プロレスを楽しむ、 チャレンジし続けたい。

名古屋で経験を積んだ後、東京に拠点を移し、憧れのレスラーが活躍するDDTへ。この団体が追求しているのは、観客を楽しませる新たなプロレスです。ただの戦いではなく、エンターテインメントとして何をどう魅せるのか、常にアンテナを広げて新しいアイデアを出し、楽しみながら試合に臨んできました。

転機は30歳ごろ。幅広いキャリアを積み

たいと考えて、プロレスラーとして試合に出

場する傍ら、団体が運営する飲食事業で店長や経理を務め、商品開発、イベント企画にも携わっていました。その実績が認められ、DDTが経営統合した会社の副社長に就任。さまざまな業務に奔走する現在の自分は、大学時代の自分に通じていると実感しています。心理学実験や統計学などの授業で鍛えられた客観的な分析力、多様な人とのよりよいコミュニケーションを考える力、いろんな仲間と協力して目標を成し遂げる力など、在学中に養われた力が今の自分の底力になっています。学びも遊びも、すべての経験が財産ですね。

今後プロレスラーと副社長の職務に全力を注ぎ、より多くの人にプロレスの魅力を伝えたいと思います。愛知淑徳の学生・生徒の皆さんも、自分からいろんなことを学び取り、無限に挑戦してください。



在学中、動作法が専門のゼミに所属(後列右から3番目が西垣さん)。「スポーツ選手の験担ぎ」をテーマに研究し、卒業論文を執筆。



プロレスのタッグマッチで勝利した西垣さん(左)。副社長を務める現在も鍛練を欠かさず、年間約100試合に出場。

株式会社CyberFight
取締役副社長
DDTプロレスリング所属プロレスラー

西垣 彰人さん(リングネーム:彰人)

レスリングの名門・霞ヶ浦高等学校出身。愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科(現・心理学部心理学科)を2009年3月に卒業。スポルティバエンターテイメントに入団し、同年11月の大会でプロレスラーとしてデビュー。2013年5月にDDTに移籍。2020年9月、株式会社CyberFight取締役副社長に就任。